

コラルボ

05
2021.10



コラル 30周年に 向けて

今年、2021年は、1991年に三鷹駅前再開発における第六ブロック共同ビル（現在のネオシティ三鷹・三鷹コラル）が着工されてから30周年。そして、再来年の2023年は、三鷹コラルが竣工・オープンし、三鷹駅の駅前広場第一期整備事業が完工してから30周年です。そこで、これからの3年間で三鷹コラルの30周年期間として、『コラルボ』の表紙にて、コラル建設以前の三鷹駅前の姿をご紹介します。右の写真は、スクランブル交差点から三鷹駅方面を撮影した写真で、1989（平成元）年のものです。コラルができたことにより、左側（西側）の景観が大きく変わっていることがわかります。

三鷹コラル情報誌『コラルボ』の思い

タイトルの「コラルボ」は、ビル名の「コラル」と英語の「コラボレーション」（Collaboration：協力や協業、協働）を足し合わせた言葉です。

三鷹コラルは、お客様をはじめとした地域の皆さま、団体・企業と連携・協働しながら、より魅力的な店づくりに取り組むとともに、このまちの商業を活性化し、三鷹駅前をより素敵な場所へと成長させていきたいと願っています。

この『コラルボ』を起点に、地域に新しいつながりや活動を、そしてそこから生まれる笑顔を増やしていけたら幸いです。

Contents

- コラル人^{びと} 保険クリニック [1F] 黒淵 貴雅さん
- コラル×三鷹 まちとつながるインタビュー
三鷹市スポーツと文化財団 学芸員 吉永 麻美さん
- 駅前とともに歩んで 手記・三鷹の今昔 [その5 太宰治①]

第5回 びと コラル人

三鷹コラルには、商品へのこだわりやお客様への熱い思いを持ったスタッフが揃っています。そんな個性あふれる「コラル人（びと）」の声をお届けしていきます。第5回は「保険クリニック」の黒淵貴雅店長です。

Interview

保険クリニック
黒淵 貴雅さん
KUROBUCHI Takamasa



「なつかしい場所」が 自分の職場に

この三鷹コラル店が2016年の5月にオープンして以来、店長を務めています。2007年に入社してから、松戸↓立川↓本社勤務↓渋谷↓新宿と異動してきて、今ではここが一番長くなりました。現在はエリアマネージャーも兼任していますが、仕事の拠点はこの三鷹です。

実は、現在は調布市在住ですが、生まれ育ったのはこの三鷹、卒礼なんです。高校生の頃は、自転車で三鷹駅まで出て電車で通学していたので、学校帰りにコラルに立ち寄ることもよくありました。また、小学生くらいまでは、今のマクドナルドの場所にあったおもちゃ屋さん、祖母に連れて行ってもらったのがとても楽しかったです。そうしたわけで、自分が三鷹駅前に通勤し、コラルの中で働いているというのは、なんとも感慨深いものがあります。

答えが一つではない課題に 向き合う

当店は、店名に添えてある「あなたの保険のホームドクター」という言葉通り、ライフプランなどお客様のさまざまなご相談に対応し、必要に応じて、約45社の取扱保険会社の商品からニーズに合わせたご提案させていただくのがお仕事です。

他のエリアでは、WEBなどを見て、

お問い合わせくださったお客様が中心の店舗もありますが、当店は買い物や通勤のついでにふらりと立ち寄ってくださるお客様が多いですね。

店頭には、保険各社の多様なパンフレットを並べていますが、もちろん「この保険に入りたい」と言ってお声かけくださるということはあまりありません（笑）。ほとんどのお客様は、「今入っている保険で大丈夫だろうか」「高齢でも/持病があっても、入れる保険はないだろうか」などの不安を抱えてご来訪されます。このため、特定の商品のご提案ありきではなく、まずはご不安の内容や解決したい課題を丁寧に伺い、考え得るさまざまな解の中から、どれがベターであるかを模索しながら対応をしています。

意外かもしれませんが、ご相談内容やお客様の環境によっては、解約のみをご提案して新規のご加入はお勧めしないケース、現在の保障で問題ないことをお伝えしてご安心いただくというケースも多々あるのです。

この街で人の役に立てる喜び

地元ということ、お客様との共通の話題も多く、安心感を持ってより踏み込んだご相談をさせていただいたり、ご友人をご紹介いただけたらという気持ちとたびたびあります。

前職では保険会社の営業をしていましたので、「自社の保険に入っていたこと」が日々の仕事でした。でも、

ここでは「お客様の人生の所要所の困りごとに向き合うこと」が日常業務であり、保険商品のご提案やお客様のご加入は、その解決のお手伝いの手段のひとつです。そうした人生に寄り添う仕事を、生まれ育った地元でできるというのは、この上なく幸せなことだと感じています。



店頭には様々な保険商品のパンフレットが
店内にはキッズスペースもあります



WEB サイト

1 階 保険クリニック
三鷹コラル店

TEL 0422-66-5001

営業時間: 10:00 ~ 21:00 (最終受付 20時)

*定休日・営業時間は、三鷹コラルに準じます

三鷹コラルでは、商業ビルの枠をこえて、地域で活躍する人々や地域団体、他の店舗や企業との連携に取り組んでいます。この企画では、コラルが会った「地域の魅力的な人・団体・活動」をご紹介します。今回は、「三鷹駅前で生きた太宰」パネル展をはじめ、三鷹コラルによる地域文化発信の取り組みにご協力くださっている（公財）三鷹市スポーツと文化財団の学芸員・吉永麻美さんにお話を伺いました。

コラルが 「太宰が生きたまち・三鷹」の 入り口に



Vol.3 吉永 麻美さん YOSHINAGA Mami

（公財）三鷹市スポーツと文化財団 学芸員
広島市出身。新宿区立新宿歴史博物館を経て2010年より現職。
太宰治文学サロンや太宰治展示室「三鷹の此の小さい家」等を担当。

訪ねてくださるという循環が生まれたのです。

また、地域に携わる者としては、私たちの企画が皮切りとなり、三鷹コラルで地域ゆかりの漫画家の方やアニメスタジオのパネル展、井の頭公園の歴史写真展など、商業施設の枠をこえた企画が次々と開催されるようになったようで感慨深いですね。

そうした流れを受けて、私たちもまた三鷹コラルさんと新たな企画をとお話していたところでコロナ禍になってしまい、なかなか次の一手が見出せないのが残念なところです。

太宰に惹かれ、 思いがけず三鷹へ

私自身の三鷹との関りは、実はまだ10年余りです。大学では写真を専攻していたものの、一旦は会社員に。しかし、

やはり文化芸術を直接支える仕事がないと学芸員を目指し、資格取得後は、都内の区立博物館に勤務しました。そこではさまざまな企画に携わることができ、充実した学芸員ライフではあったのですが、次第に「一つの分野を極めたい」という思いが募るようになり、そのタイミングで出会ったのが、太宰治文学サロン担当の学芸員募集だったので。

太宰を通して、多くの人と 三鷹のまちを盛り上げていきたい

世に数多の太宰ファンがあり、学芸員の募集時にも自分より造詣の深い方も多くいらした中で、自分が今このポジションを与えられているのは、「地域と文学をいかにつなげるか」を役割として掲げているからだと考えています。これまでの三鷹市の取り組みは、太宰ゆかりの地を案内する観光ガイドの皆様をはじめ、地域の方々の地道なご尽力あつてのものです。

今後は、三鷹からの発信によって新たな太宰ファンを作り、広げていく取り組み、そして、三鷹コラルをはじめ地域の事業者や市民の方々とともに「太宰が生きたまち・三鷹」を盛り上げていく取り組みに、より一層注力していきたいと考えています。

太宰治の足跡を訪ねてたびたび三鷹を来訪されていたファンの中には、この地を気に入って住まれるようになった方もいます。これからは、「若い人たちが

が太宰を知り、そして三鷹の魅力を知って、進学や就職を機会にこの街に暮らす、そんな流れを生み出していききたいですね。



吉永さんが勤務する太宰治文学サロン（下連雀3-16-14）には、様々な太宰グッズが♪

多くの好評の声を得た「三鷹駅前で生きた太宰」展。太宰の顔出しパネルも！

駅前とともに歩んで 手記 三鷹の今昔 その5 太宰治 ①

本名は津島修治（つしましゅうじ）。1909（明治42）年6月19日、青森県北津軽郡金木村（現・青森県五所川原市）生まれ。

三鷹市下連雀の禅林寺に墓があり、毎年6月19日の生誕にあたる日「桜桃忌」には、太宰を偲ぶ人たちが今も賑わう。

三鷹駅南口から徒歩5分、本町通りとさくら通りの交わる場所に、かつて太宰行きつけの伊勢元酒店があった。そこに三鷹市が開設した「太宰治文学サロン」がある。以前は、伊勢元酒店も、太宰馴染みの寿司屋・美登里家も残っていたが、今はいずれも取り壊され姿を変えた。

青森県下有数の大地主の家に生まれ、旧制中学時代から作家を志し、東京帝国大学文学部に進学するとともに井伏鱒二に弟子入りをした太宰治。その後、創作活動に勤しみながらも、大学の除籍、実家の反対を押し切った結婚そして別離、左翼活動、自殺未遂や薬物中毒など、混沌の20代を過ごしたのち、太宰の三鷹時代が始まる。

太宰が三鷹に暮らすこととなったのは、1938（昭和13）年、29歳のとき、井伏鱒二の付き添いで甲府の石原家を訪問し、高等女学校教師・石原美知子26歳と見合い結婚をしたのがきっかけである。甲府での生活を経て、翌年1939（昭和14）年の9月、東京府北多摩郡三鷹村下連雀113番地に転居し、三鷹での暮らしが始まった。

1940（昭和15）年2月に、三鷹では町制が施行され、北多摩郡三鷹町となった。それまで5,000人程度の農村であったものが、1930（昭和5）年の三鷹駅設置、その後の軍需産業の工場立地などによって人口が増加し、町制施行時には約21,000人となっていた。太宰はこの年の5月に『新潮』に『走れメロス』を発表している。

1941（昭和16）年6月に、長女・園子が誕生。9月には、のちに愛人となる歌人の太田静子（当時28歳）が友人らと初めて太宰家を訪問した。11月には、徴兵検査を受けたが、胸部疾患のために免除となっている。

1942（昭和17）年10月、母・夕子が重態に陥ったため、初めて

三鷹コラル商店会の会員が、駅前に生まれ育ちその歴史とともに歩んで来られた先輩方から、手記の寄託を受けました。先輩方が先人から伝え聞きあるいは調べられた地元の歴史、実際に見聞された昭和中期以降の出来事などについて、次世代に伝えたいとの思いで70代・80代を過ぎてからまとめられた貴重なメモです。寄託を受けた会員を通して、本誌にてご紹介していきます。

妻子を伴って青森に帰省。12月には急遽単身帰省し、このときに母を亡くしている。

1944（昭和19）年6月、第二子出産のため、妻子は甲府の石原家に帰省。この間、太宰は三鷹で不便な自炊生活をしながら、『津軽』の執筆に専念していた。この年の7月、先妻の初代が、中国の青島で病没している（享年32歳）。8月には、甲府にて長男・正樹が誕生。

1945年（昭和20）年3月、空襲の激化により、妻子を甲府の妻の実家へ疎開させている。4月には空襲によって三鷹の家が損壊したため、吉祥寺の亀井勝一郎方に一時滞在し、さらに甲府の石原家へ疎開した。しかし、7月には甲府空襲により石原家も全焼してしまう。その後、大変な苦労の末、妻子を連れて金木村の生家までたどり着き、そのまま終戦を迎える。

1946（昭和21）年11月、妻子を連れて疎開先の青森から三鷹に戻る。来客が多いため、三鷹駅前郵便局の近くに仕事部屋を借り、ここで戦後の三鷹での第1作となる『メリイクリスマス』を脱稿した。

1947年（昭和22）年1月、太田静子が仕事部屋を訪問。2月には、神奈川県足柄下郡下曽我村（現在の小田原市曽我谷津）の大雄山荘に太田静子を訪ねて日記を借り受け、その日記をもとに『斜陽』を起稿している。

3月には『ヴィヨンの妻』を発表。この月に、三鷹駅前の屋台で山崎富栄（当時28歳）と知り合っている。また、この月末には次女・里子（のちの作家・津島佑子）が誕生した。（続）

橋本福雄氏よりご寄稿

*今回は、独自にまとめられた年譜をご寄稿いただき、その内容を再構成して掲載しています。
*個人の手記であり、原文を尊重して掲載しています

三鷹コラル営業のご案内

〔営業時間〕 B1F-3F ショップ 10:00～21:00
4F グルメ処 11:00～23:30

※一部の店舗は除く

※上記は通常の営業時間です。新型コロナウイルス感染症対策のため、変更場合があります

〔定休日〕 1月1日、4月と9月の第二木曜日

三鷹コラル公式アプリ
ご利用ください→



2021年10月30日 第5号
発行：三鷹コラル TEL 0422-41-0105
制作：BUN-SHIN 株式会社 文伸
TEL 0422-60-2211



本誌のご感想をぜひお寄せください！
✉ coral@bun-shin.co.jp（編集部）

三鷹コラル フロアのご案内

- 5F 三鷹市美術ギャラリー（太宰治展示室 三鷹の此の小さい家）
- 4F グルメ処〔飲食 3店舗〕 3F 本の街
- 2F おしゃれ通り〔服飾・雑貨 7店舗〕 1F バラエティ倶楽部〔12店舗〕
- B1F 三鷹市場〔生鮮3品、食品等 8店舗〕

駐車料金サービスのご案内

三鷹コラルでは、地下2階の駐車場や、タイムズさくら通り駐車場で、以下の駐車料金サービスを行っています。
店舗ご利用時には駐車券をご提示下さい。
三鷹コラル館内で1店舗での買い上げ、

2,000円以上のご利用で **30分 無料** 4,000円以上のご利用で **60分 無料**

1回のお買い上げで最大60分が限度となります / テナント間のレシートの合算は行いません / 当日分のレシートのみが対象となります / 3階の啓文堂書店・5階の三鷹市美術ギャラリーでは当サービスは行っておりません / 4階のレストラン街においては、10,000円以上のご利用で1時間30分の無料券を発行いたします / 都合により、一部情報が変更になる場合がございますので、ご了承下さい。